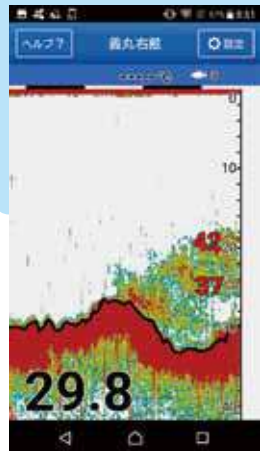


バリバリの魚群に遭遇！ 多点掛けのだいご味を満喫

指示ダナの下は狙わない!



◎指示ダナは20メートル、しかし底から宙層にかけて反応がビッシリ……。ついタナの下方も探りたくなるが、浮いた群れを散らすだけなのでそれはタブーだ。探るのは指示ダナの上に徹底して、チームワークでイサキの群れを上に向かせると好結果につながる。

▶朝のチャンスタイム、追い食いを狙った鈴木がトリプル連発

▼1尾、2尾…そして3尾…どんどん重みと引きが増していく!



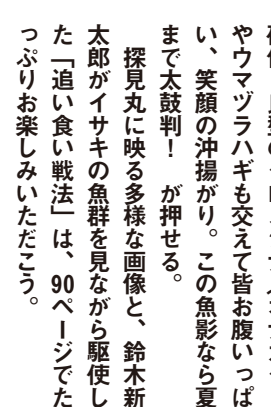
▶パワーハンドル&大型ノブで巻き心地のいい、バルケッタFカスタム150



▶コマセカゴは上窓を1/3開き、下窓は水が抜ける程度に閉める



◀ピンク、白、グリーンカラーフックを1.5号の細ハリスに結ぶ



鈴木新太郎のイサキタックル

竿：ライトゲームCI4+
タイプ73MH195
リール：バルケッタFカスタム150

道糸＝タナトル8 1.5号
片テンピン＝腕長30cm前後
クッションゴム15mm径30cm
コマセカゴ＝FLサイズオモリ80号
ハリス＝フロロカーボン1.5号
夜行グリーン
Xシートエクストリームガングリップ
ハリ＝カラーフック ムツ9号



▲すでに新緑が鮮やかな房総半島は、初夏の使者と呼ばれるイサキの宝庫だ



Tankenmaru
CV-FISH & SMART
で広がる沖釣りワールド



※本誌15日発売号掲載
presented by SHIMANO

Tankenmaru Style!

第37話 外房御宿沖のイサキ攻略
～魚群を見て多点掛けを狙う～

シマノのモバイル魚群探知器「探見丸」を使いこなして、沖釣りをもっと楽しく! それが連載「Tankenmaru-style!」のコンセプト。今回はシマノインストラクター鈴木新太郎がNew 探見丸 CV-FISH & 探見丸スマートを活用して外房のイサキを軽快に釣る!



▲濃いサングラスや偏光グラスをかけていてもよく見えるNew 探見丸CV-FISH。鈴木新太郎も「海面の照り返しがまぶしいこの季節も快適になりました」とニコッ

初夏っぽい日差しと新緑、爽やかな潮風に包まれた房総の海で、鈴木新太郎がNEW探見丸CV-FISHを見ながら次々にイサキを抜き上げる。釣り場は外房御宿沖に広がる水深30メートル前後の根周り、タナは上から20メートル付近だ。

船は探見丸スマート、アキュファイツシュまで全対応している御宿和田港の義丸。腕利きで知られる木原義一船長が「今年は何れもおっ」と断言したとおり、ベストポイントに船を当てるとイサキの魚群がバリバリと探見丸のモニターに出現した。

その魚群に呼応するように鈴木がタナ下2メートルからコマセを振り出してタナに合わせると、1拍置いてすぐアタリが到来。

「色んな釣り物を経験してきましたが、やっぱりイサキ釣りは楽しい!」

外房に生まれ育った鈴木にとって、子どものころから釣って食べてきた房総のイサキはソウル・フィッシュとも言つべき存在だ。

そんなイサキ釣りのだいご味の1つが、3本バりにバーフェクトで食わせる多点掛け。鈴木は探見丸で魚群をチェックしながら「ある手法」で2尾、3尾と追い食いさせていく。

細身軽量のライトゲームCI4+タイプ73MH195がしなやかに曲がりその引きをかわす。3尾掛けとなれば負荷も相当だが、一度体験すると「もうこれなしじゃダメ」という声も聞くエクストリームガングリップのおかげで、楽しく楽にヤリトリできる。

「新発売されたバルケッタFカスタム150もお気に入り。ギア比が低めで大型ノブ&パワーハンドル付きなので、巻き上げがスムーズで心地がいい。これならライトヒラメにも使えるし、色々な沖釣りで活用できます!」

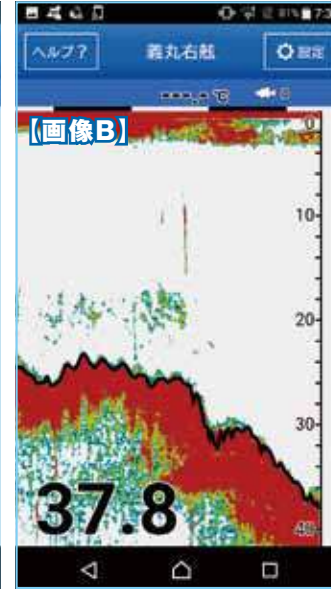
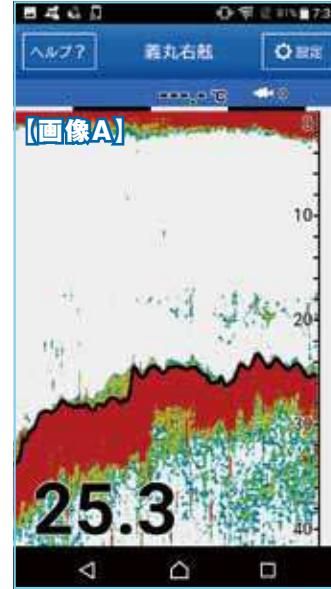
ニコニコしながら流れるような手返しを繰り返す鈴木はだれより早く50尾リミットに到達し、釣れたイサキの生き絞りに取りかかった。

しばらくして二人の釣り人も50尾を確保、良型のクロメジナ(オナガグレ)やウマツラハギも交えて皆お腹いっぱい、笑顔の沖揚がり。この魚影なら夏まで太鼓判! が押せる。

探見丸に映る多様な画像と、鈴木新太郎がイサキの魚群を見ながら駆使した「追い食い戦法」は、90ページでたっぷりお楽しみいただける。

魚群の上端で先バリに掛け 徐々に落とし込んでいく!

高根のトップに浮くイサキ魚群



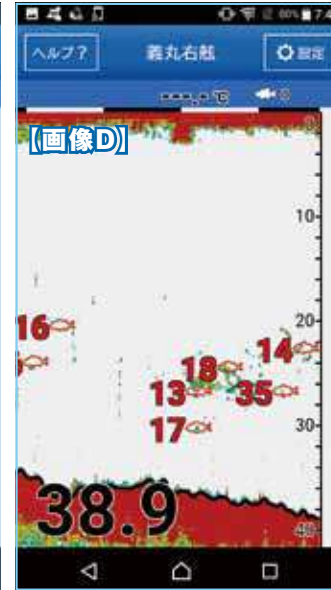
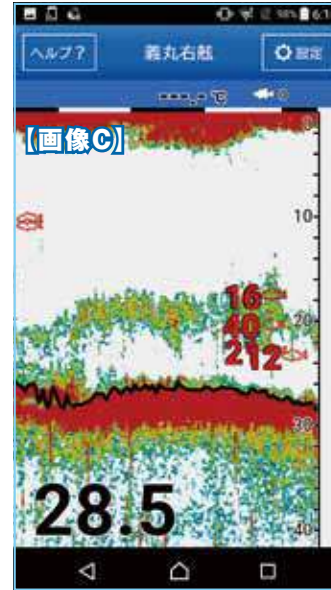
画像A 魚群に突入

●トンガリ岩のように突き出す高根の上に浮く魚群。指示ダナは20メートルだが、その上方までイサキの反応があるので18、16……とタナを上げて探ってみよう。高めのタナでヒットしたら、魚の引きなりに群れの中へ送り込んで追い食いを狙う。

画像B 魚群を通過

●Aから続く画像で、水深25メートルの高根を過ぎて38メートルまで落ち込んだところ。大きな魚群反応も通過したが「大群から外れたこんな根の肩に良型イサキが泳いでいることがある」と鈴木は言う。反応は映らずともタナ20メートルでしばらく粘ってみよう。

当日現れた興味深い反応



画像C 15mでヒット!

●底から高く浮いた、良好なイサキ魚群。指示ダナは20メートルだが、探見丸をチェックした鈴木はタナ15メートルで勝負し、トリプル掛けを連発。当日一番の活性で、こんなときは釣れるイサキも良型が多い。

画像D 単体反応の正体

●アキュフィッシュ機能で、単体魚の魚体長が並んだ場面。大型イサキかと思いきや、釣れてきたのはウマツラハギだった。このようにバラけた反応はイサキの可能性は低いようだが、ときにメジナやマダイなどのうれしいゲストだったりもする。細ハリスなので、ヒットしたら慎重にやりとりしよう。



▲探見丸に映る魚群を見て、高めのタナを積極的に探る



▲探見丸を活用して「攻めのイサキ釣り」を提唱する鈴木新太郎

鈴木新太郎の追い食いテクニクは高めのタナ取りがベースにある。探見丸で魚群を確認し、指示ダナの上方まで群れが広がっていたなら、「魚群の上端まで攻めてみます。主な指示ダナが20メートルだった今日も、15、16メートルのタナで食わせた場面がけっこうありました」

そう言う鈴木は、高めのタナで、まず先バリに食わせる→イサキは群れに戻ろうと下へ突っ込み、コマセがこぼれ出る→沈下するコマセとイサキの引きに合わせて竿先を送り込む→ハリ2番、ハリ3番とイサキが飛びついてくる……というもの。下から飛びついて反転したイサキはハリ掛かりも格段によくなるようだ。

「探見丸があれば目で魚群を確認してそんな戦法が楽しめるし、いい反応が出る瞬間を待つコマセもまける。今や欠かせないアイテムですよ」

あなたもぜひ、試してみよう。